

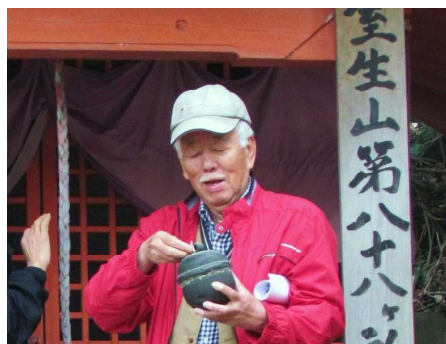
歴史研修会

神武東征の足跡を巡る

神武天皇とは誰れ。知る人ぞ知るである。初代天皇であり、2月11日、建国記念日(古くは紀元節)の立役者である。昭和も遠くなった昭和15年。和暦の皇紀二六〇〇年。この年、橿原宮で即位された事績を記念して、国を挙げて祝賀行事が展開され、私も母親に手を引かれ提灯行列・旗行列に参加した事を思い出す。

その後、日本は激動の時代を迎えるが、通史を辿っても、外敵に侵略される事なく今日の平和を享受するのも、万世一系の天皇が日本人の精神性の根底にあることの実証であろうと考える。あの「空海」にして四恩の教義の中で「国主の恩」を説いている程である。

前置きが長くなった。4月22日。雨の予報も曇り空、少し冷え込んだものの、一滴の雨も無く、27名満席のバスツアーとなる。今日一日、縄文人か弥生人となって史跡を、と朝の挨拶。先ず榛原の墨坂の地に到着。この地は東征を阻む敵軍を墨を焚き撃退したと言う。また壬申の乱では大海人皇子の援軍が集結した地と



庚申堂でのハッピーニング

も言われている。痕跡を残す伊勢本街道・「札の辻」の町並みを通り墨坂神社を参拝。流石、皇祖神の三柱を祀る壮麗な

社殿に圧倒される。

八咫鳥神社へ。山間部ながら田園地帯が読く。既に標高は300米を越え寒気を覚えるほど。東征の道案内として神の化身(建角身命タケツヌミノミコト)八咫鳥を祀る。石造りの鳥のモニュメントが面白い。サッカー協会のシンボルマークで有名だが、三本足の鳥は太陽に住む神とさ

れ、中国の故事に倣うと言われている。当時この地にはカラス族が居たと言う伝説があり、現代感覚で言えば忍者の様な種族が水先案内を務めたのではなかろうか。



参加者集合(八咫鳥神社にて)

阿紀神社(祭神 天照大神。催事 蛭能の舞台が有名)を経て「かぎろいの丘」で昼食。柿本人麻呂(ひむがしの野にかぎろいの...)の詠歌と、滅多に見れない朝焼けの風景が夙に有名である。

午後からも精力的に、宇陀 水分の総社「宇太水分神社」国宝の社殿に佇む。更に神武天皇お手植えの根方が八つもある「八つ房杉」のある桜美神社から青蓮寺へ。悲劇の人、中将姫 隠棲の寺として、なだらかな石段、石楠花が花を開き、椿、若楓、こじんまりした本堂、女人の香気が堂宇を包む静寂のひと時を楽しむ。

最後に、東征最大の激戦地となった「血原」を訪ねる。兄穿(エウカシ)弟穿(オトウカシ)の計略を逆手に勝利する物語り。伝説はこの地が血に染まったと言う。

この小さな旅を通し伝説・仮説・虚構の中で、この国の母体が幾多の神々が愛と勇気をもって形造られて行ったか、日本人の精神性の原点が何んであるか、教えられた一日であった。

参加者の方々、サポート役の岩本先生・古川・弓場 各氏に感謝申し上げます。

(川井 秀夫)